

21日 火曜

I サムエル

15:24 サウルはサムエルに言った。「私は罪を犯しました。兵たちを恐れて、彼らの声に聞き従い、【主】の命令と、あなたのことばに背いたからです。」

15:25 どうか今、私の罪を見逃してください。そして、私が【主】を礼拝することができるように、一緒に帰ってください。」

15:26 サムエルはサウルに言った。「私はあなたと一緒に帰りません。あなたは【主】のことばを退け、【主】があなたをイスラエルの王位から退けられたからです。」

15:27 サムエルが引き返して行こうとしたとき、サウルが彼の上着の裾をつかんだので、上着は裂けた。

15:28 サムエルは彼に言った。「【主】は、今日、あなたからイスラエル王国を引き裂いて、これをあなたよりすぐれた隣人に与えられました。」

15:29 実に、イスラエルの栄光である方は、偽ることもなく、悔やむこともない。この方は人間ではないので、悔やむことがない。」

15:30 サウルは言った。「私は罪を犯しました。しかし、どうか今は、私の民の長老とイスラエルとの前で私を立ててください。どうか一緒に帰ってください。私はあなたの神、【主】を礼拝します。」

15:31 サムエルはサウルについて帰り、サウルは【主】を礼拝した。

15:32 サムエルは言った。「アマレクの王アガグを、私のところに連れて来なさい。」アガグは、喜び勇んで彼のもとにきた。アガグは「きつと、死の苦しみが去るだろう」と思ったのであった。



15:33 サムエルは言った。「おまえの剣が、女たちから子を奪ったように、おまえの母も、女たちのうちで子を奪われた者となる。」こうしてサムエルは、ギルガルにおいて【主】の前で、アガグをずたずたに切った。

15:34 サムエルはラマへ行き、サウルはサウルのギブアにある自分の家へ上って行った。

15:35 サムエルは死ぬ日まで、再びサウルを見ることはなかった。しかしサムエルはサウルのことで悲しんだ。【主】も、サウルをイスラエルの王としたことを悔やまれた。

サムエルは主がサウルを退けたのを知って、彼から離れようをしましたが、サウルは彼を引き止めました。それは彼の面目を保つためでした。

サウルは「罪を犯しました」と認めましたが、その罪の結果を引き受けようとも、自らが変わろうとしませんでした。また「民の声に従った」と言ったり、「面目を保ってください」と願ったりで、弁解と保身しか考えていなかったのです。

これはまさに形だけの悔い改めの型のようなものです。悔い改めるときには、主のさばきにゆだねて、最善をなしてもらい、自分自身は全く変えられるようにと願うものです。

そのようなサウルの自己中心な悔い改めは、彼をますます王位から遠ざけたと言えそうです。神は「失敗した。こうするんじゃないかった。」というように「悔いる」方ではありませんが、サウルを憂い、イスラエルを哀れむ意味では「悔やまれる」方です。（悔いるの言語は、心に痛みを覚えるという意味もあります。）

主に従わなければ、誰もその使命を続けることはできません。その意味では誰もが悔い改めて方向修正する必要があります。決して失敗することのない主に従い、また痛みを覚えてくださる主に頼って、人生のまた今日の使命を全うさせていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

